

## 第 12 回(2009. 3. 31 配信)

## 雲竹齋先生の歴史文化講座 - 「4 月は四月ばか」

4月1日は、エイプリルフールといって、罪のない嘘をついてもいい日なのだそうだが、世界的な行事になっているようである。お隣の中国では「万愚節」というが、日本では「四月バカ」といって、どうも大正時代にどこからか、その習慣が輸入されたい。「他人の不幸は密の味」という諺があるとおり、嘘をついて喜んだり、騙して「ざまぁみろ！」と喝采したりするのは万国共通した人間の心理らしい。性善説を唱える人や平和主義を口にする人には申し訳がないが、人類は生来「嘘つき」で「戦闘好き」の小悪人なのであろう。

この四月バカの「バカ」を漢字では「馬鹿」と表記することが多い。この語源は、秦の2代皇帝に宦官の趙高が鹿を献じて馬と言い張った故事から来ているというが、本当は梵語のモハからきた「莫迦」が正しいという説もある。以前、この雲竹齋先生は、著書の中で「馬鹿」と表記して、動物愛護団体と名乗る人から猛烈な抗議を受け、大変驚き、また恐ろしい思いをした。出版した某新聞社の編集局長は、「ひらがな」か「カタカナ」で書けといったが、それを無視したのがまずかった。小心者の雲竹齋は、中国の故事も捨てがたいのだが、世間に向かっては梵語から来ているのだぞ、と今はいつている。

四月バカの起源は非常に古く、『旧約聖書』にある、洪水が引いてしまう前に鳩を放ったノアの失敗が起源だという説があるし、ギリシャ神話の、娘を死の王プルートンにさらわれた豊穡の女神ケレスの搜索が無駄足に終わったことが起源だという説もある。ほかに、1582年にグレゴリウス13世が、それまで使用していたジュリアス・シーザーが定めたユリウス暦を廃止し、新たにグレゴリオ暦を定めたが、このときに、旧暦に従っていた人たちに対して、でたらめな贈り物をしたり、お祭り騒ぎをしたりして、ふざけたのが始まりだともいう。このように、各国にはその国の歴史的な愚行と騙し合いの逸話に基づく起源説がたくさんあって、その起源は定かではない。ただし、この行事はイスラム教圏にはない。それは、ふだんから嘘をつくことを聖典『コーラン』で厳しく戒められているからである。だからイスラム教徒は嘘をつかない。たとえ誰もが「それは嘘だろう」と思えることでも、自分が思っていることは尊いアッラーの思召しだと信じているので、本人はまじめだから、決してその人の罪ではない。「信仰心」というものの欠片すらない諸君には、とうてい理解できないだろう。無理もないことだ。

学者によれば、1年が365日だが、基本のグレゴリオ暦では365.2425日だという。しかし、地球が太陽の回りを一周する長さを測る時点をどこにするかで微妙に違ってくるが、このグレゴリオ暦は4年に1度閏(うるう)年があり、2月28日に1日足して2月を29日までとしている。これは1年を365.2425日としているので、およそ4年に1度1日を加えなければ狂ってくるからだそうだが、天文学上では春分点を通過した太陽が再び春分点に来る時間は365.2422日だから、実際には0.0003日少ないので、3300年に1日減らす。そこで400年に3回閏年にせず平年とする。現在は100の倍数になる年は400の倍数でないかぎり平年としている。こうした微妙な狂いは、地球が完全な球体ではなく、地球が太陽の回りを楕円軌道で回っていることや、太陽や月などの引力により、地球の南北の極を結ぶ地軸がブレながら回転しているからである。つまり、コマがふらつきながら楕円を描いて回転しているのだと思えばいいのだという。漫談家の松鶴家千とせ氏にいわせれば、「(この理論が)わかるかなあ？ わかんねえだろうなあ～イエィ！」といったところだ。

日本では、明治5年(1872)12月3日、太政官布告によって太陽暦に変わり、明治6年1月1

日となったが、それまでの暦を「旧暦」と呼んでいる。太陽暦に対して「太陽太陰暦」という。この暦は、太陰暦を基にしていながら閏月をつくり、季節との整合性を求めたもので、純粋な「太陰暦」は12ヶ月を1年とした場合、太陽暦に比べておよそ11日短くなるから、およそ3年に1回閏月を入れてズレを補正したもので、より正確には19年に7回閏月を入れればいいことになる。これを太陰太陽暦という。日本には、これまで数多くの暦が作られ使用されてきたが、その中でも天保15年(1844)に、渋川景佑らが西洋天文学を取り入れて作った天保暦を現在では「旧暦」と呼んでいる。

なお、ユダヤ暦と呼ばれるイスラエルの暦は、日本の旧暦と同じで太陰太陽暦である。また、イスラム教徒が使うイスラム暦は純粋な太陰暦だから、1月が29日と30日からなり、12ヶ月で1年だが、日本の旧暦やユダヤ暦のように補正はしないから季節がずれていく。どちらも1日の始まりは午前0時ではなく日没から日没までの間である。なお、暦は任意の基準となる年を紀元と定めるから、キリスト教徒の場合はキリストの誕生を基準とした暦であるし、イスラム教徒は、預言者ムハンマドがメッカを追われてメディナに移住した日(西暦622年7月16日)を紀元としている。だから英文ではAH(Anno Hegirae アノ・ヘジラ = 移住の年に)と表記する。日本では、明治5年の太陽暦に変わった際に、「皇紀」という年号を使うようになった。神武天皇が国を治めたと伝えられている年(紀元前660年)を皇紀元年としたが、戦後天皇制に対する批判などから皇紀を使わなくなった。神武天皇の時代は縄文時代に当たる。卑弥呼でさえ弥生時代だから天皇の存在すら信憑性に欠けるという意見もあるが、イスラエルの使っているユダヤ暦などは、『旧約聖書』にある天地創造の時を、どういう根拠で推理計算したのか知らないが、西暦の紀元前3760年を紀元としている。それに比べれば、日本人はクソ真面目な国民である。

四月バカを、フランスではPoisson d'avril(ポワッソン・ダブリール)と呼んでいる。直訳すれば「四月の魚」とでもいうのだろう。フランスの河川では、春先に孵化した大量の魚が、4月になれば餌をつけないハリでも釣れるというので、この時期の魚をポワッソン・ダブリールと呼んだのだが、この愚かな魚の大漁を祝う祭りから発展したといわれている。

パリのある魚屋さんが、「今夜は、あなたの亭主にお魚をたべさせましょう」と書いた看板を出したが、全然お客が来ない。実は、魚という意味のPoissonという文字が、なんとPoisonになっていたからである。フランス語では、Poisson からsを一つ書き落とすと「毒」という意味になってしまい、毒を亭主に食べさせよう、という文章になってしまったのだ。だれかがいたずらをしてsの文字を一つ消してしまったのだろうという。だが、どうもウソくさい。4月1日に誰かが作った話のような気がする。

日本でも、国会の議員連盟が4月1日は演説や記者会見をしないことを申し合わせした。それは、演説の中身がエイプリルフールのジョークと間違えられかねない、という理由からだという。つまり、ふだんから議員たちは公約を守らなかつたり、嘘をついたりする人種だと思われたら困る、ということらしいが、最近の議員たちを見ている限りそのような心配はいらぬ。国民のだれも公約なんぞ信じてはいないから。でも、真偽のほどは知らない。これも4月1日に聞いた話だから。